

製造業を取り巻く競争環境は厳しさを増すばかりだ。生産性向上・省エネルギーに加え、環境負荷低減、持続可能な開発（SDGs）への対応なども迫られる。「エレクトロヒート技術」を武器に課題解決に取り組む企業の事例を紹介する。

◇ ◇

オレンジベイフーズ（愛媛県八幡浜市）は大手ハンバーガーチェーン向けに添加物を使わない、牛肉100%のビーフパティを生産する。2009年の会社設立から工場環境対策を重視し、設備更新に力を入れている。中でも環境負荷の軽減を追求。1月には産業用ヒートポンプ給湯器を導入し、温水供給にかかる二酸化炭素（C

オレンジベイフーズ

モノづくり現場

生産革新・脱炭素社会への挑戦



①

ヒートポンプ給湯器導入

温水供給、排出CO₂60%減



CO₂の排出量を従来より60・1%削減するなど、効果的な取り組みを続けている。安全な製成品を供給するため、製造現場では毎日、作業後に55〜57度Cの温水で機械を1台ずつ高圧洗浄機で洗浄する。使用する温水は大量。最も熱も利用し、90度C以上の熱湯をつくって、25立方メートルのタンクにためている。横瀬洋社キユートと合わせて工場空調用冷凍機のブラインポンプのインバータ化も実施。エコキユートとこのインバータ化により従来比69・5%のCO₂削減が見込める。総設備費は6000万円だが、効果の高さから2分の1は環境省のASSET

（松山支局長・森野学彦）

【企業データ】▽所在地 愛媛県八幡浜市保内町1-289の1、08994・36・13388▽主要生産品目 ハンバーガーチェーン向けビーフパティ

ラブル時の対処も難しく、事業の補助金を得ることができた。そこでさらなる環境負荷軽減にもつなげることから導入に踏み切った。

四国電力のアドバイスを受け、今回はエコキユートと合わせて工場空調用冷凍機のブラインポンプのインバータ化も実施。エコキユートとこのインバータ化により従来比69・5%のCO₂削減が見込める。総設備費は6000万円だが、効果の高さから2分の1は環境省のASSET